



撮影スタイルに合わせた特注ハウジング

村山嘉昭さん

山縣 基与志

「“川ガキ”ってご存じですか？昔からきれいな川だけに生息する生き物です。川遊びをする子供という意味なのですが、僕は4、5年前からこの“川ガキ”を追っかけて全国を飛び回っています」

こう語り始めたのは、フォトエコロジストの村山嘉昭さんである。村山さんは自分自身が、子供のころから川遊びが大好きで、学生時代には、カヌーで全国の川を下ったりしていたという。

「川ガキを撮り始めたころは、ニコノスを使っていました。でもピントも目測だし、撮影範囲がはっきりわからない。ニコノスで動いている川ガキを撮るのは、むずかしかったですね」

村山さんの川ガキの撮影方法は、まずは、とにかく自分もいっしょに川で遊ぶ。そして、川ガキと心が通じ合ったところで、おもむろに撮影が開始される。当然、水に濡れるので、防水カメラが必須となる。

「ニコノスは、あくまでも水中で使うカメラですね。僕の場合、水中もちろん撮りますが、半水面や水に浸かりながらの撮影が多い。そこで、ハウジングが気になりだしたのです」

水中写真の専門誌や水族館に勤める友人に聞いたたりして情報を集め、ハウジングについて研究を始めた。

「調べているうちにいろいろなことがわかってきま



機材一式



特注ハウジングを手にした村山嘉昭さん

した。市販のハウジングは、当然水中での撮影を中心に考えていますから、重くできています。軽いと逆に沈まなくて困るわけです。でも僕の場合は、カメラを抱えて泳ぐこともあるし、そんなに深く潜るわけではないので、できるだけ軽いほうがいいということに気付いたのです」

そうなるとうち製のハウジングでは、満足できない。そこで、村山さんは、意を決して専門店に相談に行くことにした。

「ハウジングの専門店は、何だかとても敷居が高く感じていました。僕のような、ダイバーでない人間が行って相手にしてくれるのか心配でした。対応してくれたのは、若いがとても熱心な水元弘道さんという方でした。現在は、独立していて自分でハウジングの店を開いていますが、いまでもメンテナンスは、水元さんにやってもらっています」

川ガキの写真の撮り方から説明し、具体的に何が必要かを、2人でじっくりと煮詰めていった。

「いやー水元さんは、本当に熱心に話を聞いてくれました。僕の希望は、とにかく軽いこと。それに機能としては、シャッター速度、絞り、ズーム、ピント、

【ハウジング製作】PROOF・水元弘道 TEL(03)5855-0808